



Pick Up News 皆さんの感染予防に対する意識も高く、その実践の成果もあって無事に対面授業が継続できています。しかし変異株ウイルスは大都市部から地方にもも感染は広がりをみせています。今一度、それぞれの行動・行為における感染予防の徹底をお願いします。さて、授業は5~6回目を迎えたところです。1年生も学びのリズムがつかめたところかと思えます。何より、授業に出席してしっかりノート等整理し、その時間内で理解すること、その上での予習・復習が後に利いてきます。友人同士での情報交換も積極的に行いながら、お互いに学び合い、助け合いながら前に進んで下さい。学びや生活で不安がある人、相談が必要な人は遠慮せずに担任の先生、教学アドバイザーの先生に相談して下さい。最善の方法と一緒に探してくれます。今年は梅雨入りも早そうです。負けずに乗り越えましょう！



教育・実験棟の工事はじまる 建築学科の実験設備を始め、全学共用の実験施設となります。5号館地下3階にある諸設備が移設されます。竣工は来年の夏。来年後学期からは新棟での実験等が始まります！なお、これだけの大規模建設現場を間近で感じられることは貴重なことです。現場見学会・勉強会を連続的に実施する企画を検討中です。1年生の夢・目標を掲載例年、入学時に新入生から4年間での目標や夢を書いてもらっています。今年も3階に掲載しましたのでご覧ください。4年間での目標の実現に向けての努力を期待します。対面授業の実施感染予防を徹底しながら対面授業を実施しています。建築プロフェッショナル論(3年)ではハウスメーカー勤務から大工となった卒業生の実演も！



変化に対応できる人材の育成を
第10代学長に就任した 渡邊浩文氏

2021年4月1日、建設業をはじめ東北の産業を支える人材を育成してきた東北工業大学、昨年11月には、北関東以来で新たな建築学部が開設された。渡邊浩文氏が第10代学長に就任し、新しい時代に合わせた教育・研究の展開、さらには社会貢献に向けた取り組みが期待されている。

渡邊浩文氏は、建設業をはじめ東北の産業を支える人材を育成してきた東北工業大学、昨年11月には、北関東以来で新たな建築学部が開設された。渡邊浩文氏が第10代学長に就任し、新しい時代に合わせた教育・研究の展開、さらには社会貢献に向けた取り組みが期待されている。



1年で学ぶべし建築学部長
副学長に就任した 石井敏氏

東北工業大学、昨年11月には、北関東以来で新たな建築学部が開設された。石井敏氏が副学長に就任し、新しい時代に合わせた教育・研究の展開、さらには社会貢献に向けた取り組みが期待されている。

石井敏氏は、建設業をはじめ東北の産業を支える人材を育成してきた東北工業大学、昨年11月には、北関東以来で新たな建築学部が開設された。石井敏氏が副学長に就任し、新しい時代に合わせた教育・研究の展開、さらには社会貢献に向けた取り組みが期待されている。



建築学部サミットへの参加

日本に建築学部ができたのは2011年。工学院大学と近畿大学が日本初の建築学部としてスタートしました。東北工大建築学部は、全国では6番目の設置、北関東以北では初となります。現在は9大学が建築学部を設置し、来年以降もいくつかの「大学で設置が続くようです。このたび、建築学部10周年を記念した建築学部サミットが工学院大学主催でオンラインにて行われました。9大学の学部長が参加し、各大学の特色等を披露し、今後の可能性等をディスカッションしました。全国500名が参加、本学からも教職員・学生が視聴しました。1年生で自主的に参加してくれた2名からコメントをもらいましたので掲載します。本学ならではの特色をさらに発揮できるように考えていきたいと思います。



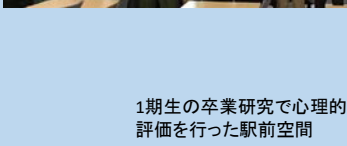
渡辺学長・石井副学長(建築学部長)による大学・学部のPR(建設新聞 5/13付)

参加学生の感想 ■サミットでは多くの先生方のお話を聞き、建築を学ぶにあたっての目的や心構えを知ることができました。授業方法についてのディスカッションは、特に考えさせられる内容でした。私も、オンデマンドでの授業には利点もある一方で、臨場感のある対面授業の方が内容をより理解でき、そこからアイデアも生まれやすいのではないかと考えました。(1年千葉洗輝くん) ■今回建築サミットに参加して同じ建築学部でも出来た経緯や授業の方針の違いなどさまざまなことがわかりました。その中で東北工業大学のほかの大学とは違った特色も見つけることができました。先生方同士だけでなく、学生同士の交流会のようなイベントがあれば新たな発見や学ぶことがあると思うのでそのような機会があればいいと思いました。(1年谷口智哉くん)

Pick Up Lab. 大石研究室の2021年度は、2期生のメンバー9名に大学院生1名を迎えて、総勢10名でスタートしました。大石研究室では、建築空間や都市空間を利用する人々の行動や心理的な評価を扱う環境心理・生理分野の研究、または建築空間における光環境・熱環境の実測調査やシミュレーションに取り組みます。今年度も新型コロナウイルスによる様々な制限があるため、学外での調査や測定は難しい状況ですが、3月に卒業した1期生による卒業研究を発展させるべく取り組んでいます。研究室に興味のある学生はいつでも遊びに来てください



大石研究室2期生のメンバー



1期生の卒業研究で心理的評価を行った駅前空間



4年 佐々木 とも子 さん
富城 古川高校 出身

Pick Up Student 昨年はコロナウイルスの影響で生活が一変し、当たり前だと思っていた対面授業もなくなりました。オンラインで勉強ができる環境に感謝しながらも、毎日が手探りの一年でした。そうこうしているうちに私も4年生になりました。3年生のコース選択ではシステムコースに進みましたが、自分の学びたいことが変わり、現在は計画系の研究室に所属しています。建築学科は建物についてだけではなく、都市計画なども学ぶことができます。たくさんの分野に触れることができるからこそ、自分が学びたいことが見えてくると思います。残り1年という短い期間で自分が納得できる卒業論文を執筆し、制限された生活が続きますが後悔のない日々を送りたいです。



1年 遠藤 翔くん
仙台南高校出身

Pick Up Student 私は将来ゼネコンに就職し、さらに、一級建築士の資格を取得して様々な建物の建設に携わりたいと思い、東北工業大学の建築学部に入學しました。私は普通科高校だったため、建築の基礎知識もなく不安でした。特に建築設計の授業では定規を使って正確に線を引くことすら難しく感じました。しかし、先生方が丁寧に解説して下さるため、安心して課題に取り組み、より建築に興味を持つことができました。コロナの影響によりオンラインでの講義もありますが、各授業で様々な工夫が施されており、高いモチベーションを保って取り組むことができている。大学での4年間は建築の知識とスキルを習得し、夢の実現に向けて励んでいきたいと思います。